

このスイッチ使ったことありますか？



このスイッチの正式名称は「横滑りマークスイッチ」と言って、「横滑り防止装置」のON・OFFを切り替えるためのものです。ほとんどのドライバーが使ったことがないスイッチではないでしょうか。

「横滑り防止装置」は、カーブを曲がる時や、滑りやすい道を走行するときに、車が危険な動きをしないように制御するための安全装置で2012年以降、義務付けされています。「横滑り防止装置」は安全に走行するためには必要不可欠な機能なので、通常は「ON」の状態になっています。



では、なぜ安全装置なのに解除（OFF）出来るようになっていのでしょうか。わざわざ安全でなくなることをするなんて…それは、安全装置ではありますが、マイナスに働く場面があるからです。



例えば、タイヤがぬかるみや雪にはまってしまった(スタック)場合です。脱出しようとアクセルを踏み込んだ際、「横滑り防止装置」がONになっていると、タイヤの空転を感知し自動的にエンジンの出力を抑えます。しかし、滑りやすい路面でスタックしてしまったときは、ある程度タイヤを空転させないと脱出できないことがあるので、こうしたときはスイッチをOFFにしてアクセルをゆっくり踏みつつ、わざと少しだけ空転させて脱出を試みてください。

このように極めて限られた場合にのみ「OFF」にするためのスイッチですが、特殊な場面では不可欠な機能なのです。もしもの時のために覚えておいてくださいね。

通常時は、「横滑り防止装置」をOFFにするのは危険です。必要な状況でない時は「横滑りマーク」には触れないように注意してくださいね。誤ってOFFにしてしまっても警告灯がつくので、すぐにわかりますね。

そして、これからの時期は、横滑りやスリップしないよう雪道や凍った道などに備えて冬用タイヤやチェーンの備えをしっかりとしてくださいね。

